

旬じょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニューズレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒252-0321 神奈川県
相模原市南区相模台1-23-9
Tel.&Fax.
042-748-8240
<http://www.jouhan.com>
E-mail:info@iki2life.com

3月例会ご案内

日時 : 3月11日 木曜日
18:00 ~ 20:00
場所 : 港区立商工会館
参加費 : 1000円
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」の
第三章より 続き
演者 : 石田 金次郎

前回のつづき

「盲目的な自然崇拜」では、自然礼賛論が出るのは、自然と闘いながら生活している立場の人から出たものではない。自然は生活するに過酷なのである。自然を謳歌するには、都会との支えが必要なのである。自分一人だけ楽しむというのはまともでない。

「東京にいと自然と楽しむ機会がない」という話を時々聞くけど、立場論を踏まえて皆さん如何？

「立場による評価の違い」では、例えば「軽井沢は都市化して、俗化した。こうゆう自然破壊はけしからん！」と憤慨する話し。「近頃は都市生活が増えて、自然に接する機会がなくなった！」

庶民大衆が、昔なら手の届かぬ自然と接触出来るようになった時代認識は如何？

或いは、NHKのアニメ映画「マルコポーロの冒険」に対するアラブ諸国からの抗議。

昔見た西部劇！

いずれも制作者の立場と見るものの立場の違いによって、評価が変わってくる。

「貿易摩擦に見る立場」では、国際情報や学問、学理などの情報にはそれぞれの立場が貫かれている。立場の検査をやらないと、とんだ失敗を起こすことになる。

「外国の立場で論じるエコノミスト」では、外国情報の引き写しでは、外国の立場を代表してしまう。立場の検査が必要である。

「安定成長の意味」では、日本の高度成長と安定成長の使い分けは間違えないように！

日本の実際経験では最も安定経済であった安定成長であった「高度成長」の戦後30年の経験をご破算にして、「狂乱物価」で不安定経済を実現した数年前の低成長経済を恒久化しようというのが「安定成長論」？

全ての国、全ての国民に共通して適用される普遍性の原理などない。その国の立場の表現、自国の利益に役立つものでなければならない。

「自由の持つ意味」では、「自由」はそれぞれの時代、それぞれの人たちの立場を表現してきた。フランス革命の「自由・平等・博愛」の自由は18世紀の進行ブルジョワジーの自由であった。アメリカの自由はアメリカの国益を守るもの、日本の自由は日本の国益を守るもの。ぶつかり合いながら、その立場を検査して、その中から真実を探し出すことが必要である。

「立場の分析」では、立場がはっきりすれば、問題の衝突点の本当の姿が分かる。立場の分析はその性質の違いを認識させ、対処する方法を正しく選ぶことが出来るようになる。

以上が第三章の内容である。

追補；要考慮！

- ・ここ数年、地球温暖化が進み気候変動への対応が西欧を中心に急速に進んでいる。…ESG. SDGs
- ・2016年に発効したパリ協定が目指しているのは2100年までの気温上昇を産業革命以前と比較して2度未満に押さえ込むことである。その2度の目標も非常に危険であると科学者が警鐘を鳴らしている、
- ・シベリアの気温 38℃、永久凍土の融解、異常干魃、強大な豪雨被害、大型台風、山火事、海面上昇と気候変動に伴う大災害は頻発してくる。
- ・経済成長と二酸化炭素発生量の増のデカップリングは難しい。技術は、問題の先送りだという主張。
- ・ESGの重要性は益々重要になる。
- ・アフガンの大干魃と中村哲の意味。
- ・日本は2050年までに温暖化排出ガスを実質ゼロにする宣言済み；戦略目標の賽は振られた！

1月例会報告

日時 : 1月14日 木曜日
18:30 ~ 20:00
場所 : 港区立商工会館
テーマ : 城野先生の「状況判断の行動学」の
第三章から学ぶ Part 3
演者 : 石田 金次郎

コロナの蔓延により、1月11日再度緊急事態宣言が発せられ、施設の利用が制約され、1時間短くなりました。

第三章は、情報と立場の検査です。

事実は厳然と事実として情報によって変化せずにあるものである。

が、その事実に関する情報は入手した時の自分の立場と情報を出した人の立場をしっかりと検査する必要がある。何故なら情報は、見る人の立場によって違ってくるからである。

立ち位置が違うことによる認識の対立は、当たり前である。

昨今では、事実は、グローバル化やサプライチェーンの進展によって、見えにくくなっており、意思の疎通が益々必要であろう。

参加者からは、原発問題への認識の違いや電力会社の自然エネルギーへの対応、電気自動車の意義など、幅広い問題意識の面での議論があった。

尚、情報の面で、情報の種類は、日常的情報と戦略的情報の2つあり、中でも現場を踏んだ情報は貴重であるとしたが、ビッグデータの存在も論議した。

(ビッグデータ概略)

最近では、入手しうるあらゆる情報を大容量の各種コンピュータに集め、そのデータは巨大で複雑なデータの集合体となり、課題克服の為に、それらの情報の収集・取捨選択・保管・検索・解析・可視化等をして、活用する場面が急拡大している。

これらのビッグデータの主導権を誰が握るのか、また、データを管理する組織の能力と分析アプリケーション能力が要求される。

戦略及び戦術は、これらの情報によってより一層強化されるのではないかと論議あり。

「新製品の発売・決定」の段では、全ての商品は売れる側面もあるし、売れない側面もある。その評価は、確定的事実を持たないので、あくまで胸算用的推測になる。が、推測以外の昇進や組織などの人的要因などもある。これらは戦

術的問題であり、事実が是非を証明してくれる、と述べている。

小生、厚板を扱ったことがあり、原油の貯蔵タンクの底版がスラッジと鉄の間で電触が起こり腐食してしまい定期修理が大変だというユーザーニーズがあり、鉄に代わり犠牲陽極になるアルミを表面処理したアルミ溶射鋼板なら長持ちすると提案し、一部採用されたが、取扱の問題で最終的には没になった。新商品としては良いのだが、相手の生産販売体制に合わなかった経験あり。それ以外にも幾つも新規事業を見てきたが、「帯に短し たすきに長し」で、開発費も回収できず、結局本業回帰の大合唱で消えていった。新製品、新分野への進出は正しい情報の認定・収集が大変難しいものであるとの痛い経験をした。

「車公害という情報」では、自動車の排ガス公害から、凶器であり根本から考え直すべきでとの主張がある。一方では自動車は国民生活を支えている大きな役割を負っている。その両方のバランスをはかるといふ行動が必要である。自動車論議をタネに結構な暮らしが出来る「商売としての立場」に流されてはいけないといっています。

大阪の国道43号線沿いに住んでいたことがあり、身を以て体験しています。今は知りませんが、あの排ガスの臭いを嗅ぐと頭が痛くなる。本当に健康に良くない。

自ら体験した排気ガス公害の発信は商売の立場だけの問題ではないと思っています。

1988年12月国道43号沿線の住むぜんそく患者らが企業や国、阪神高速道路公団などを相手に訴訟を起こしました。

裁判では、2000年に神戸地裁が自動車の排ガスの一部排出差し止めと健康被害に対する損害賠償を命じ原告が勝訴し、その後国が環境対策を進めることで漸く和解が成立しました。

平成11年(1999)石原都知事が都民の健康を守る為、東京の大気汚染を改善すべくペットボトルの中の黒煙すずを見せて、それを排出する旧式のディーゼル車に粒子状物質(PM)を捕集するフィルターの装着を義務づけました。小生が勤務していた会社で装置を開発・認可を受け販売しました。

何社かの小さな企業が開発し認可を受けたのですが、装置としては短期の用途としては使用できるが、長期には使えないものでした。しかし、時々、東京の空が綺麗になったというTV報道があり、重要な役割を果たしていたのだと満足感に浸れました。大手の自動車メーカーはほおかむりです。大手のエゴでしょう。

「東京は不毛の砂漠か」では、東京都知事選での某政治家の太田薫氏の応援演説で、「東京都は今病んでいる。隣は何をする人ぞという関心の持てない不毛の砂漠」と発言した。人間は親切にされれば親切で返す。これが主流である。応援演説としても、都民を馬鹿にした精神荒廃の人間だ。

人間関係は交互作用である。自分勝手な考え方でないかと非難している。

思うに、社会は、情報を発信するものは敬意を尊敬がないと成り立たない。それを踏まえた社会人としての発言に責任を持たなくてはいけないということであろう。

